



確実な歩みを

校長 富田 操

長い夏休みが終わりました。昨年度の夏休み明けは、分散登校だったことを思うと、今年度は、通常のスタートを切ることができ少し安心していています。とは言え、現在の感染状況を思うと、全く油断できないことは確かで、まだまだ気を付けながら、しかし、その中で、やれること・再開できることを、慎重に進めていこうと思います。

さて、夏休みが明ければすぐに授業が始まります。学校説明会でもお伝えした様に、学校が本来一番にやるべきことは「授業」です。「授業を通して子どもを育てる」これが、学校の使命です。小学校の教職員は、全教科を担当していますが、その中で、一年に一つの教科を取り上げ、教職員全員で授業について学び合い、授業改善を目指す「重点研究」というものがあります。

本校の今年度の重点研究は「学び合い・認め合い」を中心テーマに取り組んでいます。全教職員が、年間一度は必ず授業を公開し、全教職員で授業を見合いながら、研鑽と修養を積み、切磋琢磨し、授業改善を図ります。

そんな重点研究の公開授業中に、講師としていらっしゃった先生がおっしゃった次のような言葉が印象に残っています。「子どもたちが、どの子も、どのような考えであれ、自分自身で考えているね。このように考えられる子どもたちは強いよね。」

「自分で考える」ことは、私たちが、まさにこの3年間あまり、重点研究で追求してきたものです。そして、本校の学校教育目標でもあります。

そして、こうもおっしゃいました。「自分の学校は、人権教育に力を入れているけれど、少し傷つかないように先回りしすぎるところがある。こうして、わからないことをわからない、と堂々と言えたり、自分で自分の考えをもって友だちに伝えたりできる子どもたちには、本来子どもたちがもつ「強さ」が育つのかもしれないなあ。」

もちろん、いつでも、どんな場面でも子どもたちが自分の考えをもち、堂々と伝えられるわけではありません。しかし、この数年の取り組みで確実に進んでいることも確かです。わからないことを「わからない」と言えることは、子どもにとって、思うより難しいことです。まずは、「それを受け止めてくれる仲間がいる」という信頼。そして、「そう発すればそこに向き合ってくれる教職員がいる」という信頼。その二つが必要です。

この3年間、『自分で考え、表現し、挑戦しつづける子』を学校教育目標として、授業・行事等あらゆる場面で意識してきました。そこに向かってきた教職員のたゆまぬ努力が本当に少しずつですが、実ってきているのだとすれば望外の喜びです。今年度は新たな次の3年間への中期学校経営計画を策定する年です。この夏休みに、千秀小学校の新たな目標について全教職員で話し合いを行いました。目標が、変わるにせよ、引き続き同じ目標になるにせよ、今の千秀小学校の子どもたちの育ちと、そこに積み重なっていくべき課題を受け、さらに子どもたちが育つことを一心に願い決定し、その実現に向けてまたこれから3年間地道な努力を続けていきたい、と思います。

どうぞ、今月もいつも通りの厚いご支援を賜りますよう、お願いいたします。